会計学科創設40周年記念　**商学部・会計学研究所共催記念シンポジウム**

会計教育の現状と課題を語る

今年、創設40周年を迎えた専修大学商学部会計学科。本学は、前身の計理科の時代から数えると90年以上の会計専門教育を行っている伝統校である。記念行事として6月に公開シンポジウムを開催―**7月号既報**、10月・11月にも記念行事が行われた。

10月28日、生田キャンパスで商学部と会計学研究所（所長―柳裕治教授）共催による記念シンポジウム「会計教育の現状と課題」が開催された。

柳　裕治教授

小林啓孝教授

鈴木　豊教授

あいさつする
川村晃正学部長

「国際感覚と会計マインド育成」…鈴木青山学院大教授

「会計プラス１（ワン）」を目指して…小林早稲田大教授

「会計学部・会計研究科」創設による一貫教育を…柳商学部教授

大学院会計研究科長・教授）は、早稲田大学会計大学院では、公認会計士ばかりでなく高度な専門能力を有する会計専門家を養成するとともに、会計の知識に加えて自分の得意分野（ＩＴ・英語など）をもつ「会計プラス１（ワン）」を目指した教育が行われていることを強調した。

柳裕治商学部教授は、本学が計理専修から会計の専修へ発展するために、会計学部と会計大学院（会計研究科）を創設した一貫教育によるわが国トップレベルの会計教育体制の実現を提唱した。

現在、注目されているテーマだけに学生・院生・教員・一般聴衆ら約500人が参加し、盛況であった。

鈴木豊教授（会計大学院協会理事長・青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科教授）が、全国で17大学が開校している会計大学院の意義と現状について述べ、青山学院大学会計大学院の公認会計士・税理士・最高財務責任者（ＣＦＯ）などの会計専門職教育カリキュラムや就職先の特徴を語った。

小林啓孝教授（早稲田大学

創設40周年記念大会

特別講演会と「記念祝賀会」

中村　輝夫氏

安藤英義教授

あいさつする
渋谷武夫教授
（40周年記念行事実行委員長）

「鳳祭」期間の11月2日、生田キャンパスで商学部会計学科創設40周年記念行事実行委員会（委員長―渋谷武夫教授）主催の特別記念講演会が開かれた。安藤英義商学部教授（企業会計審議会会長・日本会計研究学会前会長）が「会計と法制度」を、中村輝夫氏（日本化薬株式会社前社長・日本原価計算研究学会理事）が「会計と経営」をテーマに講演し、約100人が聴き入った。

また当日は、税理士・中小企業診断士・社会保険労務士による企業経営・年金相談会も開催。会計学科40周年の歩みとして会計学教員の著作や研究教育活動の写真などを展示した会場には多くの見学者が訪れた。最後に日高義博学長はじめ多くの来賓を迎え記念祝賀会が盛大に催され、参加教員たちは教育・研究の推進と、さらなる学科の発展を誓った。

エクステンションセンター公開講座

歴史を紐（ひも）とく

「世界の都市ものがたり―時代を動かした都市の歴史―」を共通テーマに、9月から11月にかけて生田キャンパスで開かれ、2204人が受講。以前の受講者アンケートで要望の多かった「世界の都市」にスポットを当て、それぞれの都市が最も華やかだった時代のエピソードを西洋史・東洋史・日本史を専攻する講師が語った。

▲　荒木敏夫教授（副学長）の講演

講演者とテーマ

▽9／27＝荒木敏夫文学部教授（副学長）「奈良　藤原京・平城京―古代都市の構造―」、松原朗文学部教授「長安　長安一片月―唐詩人とめぐる都大路―」、矢野建一文学部長「京都　長岡・平安遷都と交野郊祀―日本に天壇はあったか―」

▽10／11＝西坂靖文学部教授「江戸　江戸の大呉服店―巨大都市の繁華の象徴―」、小西恵美経済学部准教授「ロンドンジン横丁とビール街―18世紀イギリス都市ルネサンスの光と影―」

▽11／29＝新井勝紘文学部教授「東京　この1世紀・多摩から東京を見る―都市と農村の軋轢―」、日暮美奈子文学部准教授「ベルリン　エリスたちの街―19／20世紀転換期ベルリンの栄光と悲惨―」

社会体育研究所主催　公開シンポジウム開催

「オリンピックがもたらすレガシー」

大学が競技力向上に果たす役割を討論

11月12日、社会体育研究所（長島博所長）の公開シンポジウム「オリンピックがもたらすレガシー（遺産）」が開かれた。

第1部は久木留毅文学部准教授（ＪＯＣ情報戦略部会長）の進行で河野一郎東京オリンピック招致委員会事務総長（ＪＯＣ理事）が「オリンピック招致がもたらすレガシー」を講演。「21世紀は『都市』の時代であり、都市問題に直面してきた東京だからこそ、世界の手本となることができる。招致実現には国家の品格、政策問題、国際戦略の視点から考えることが必要だ」と語った。

河野　一郎氏

第2部は、全日本男子バレーボール監督の植田辰哉氏、北京五輪メドレーリレー銅メダリストの宮下純一氏、ソウル五輪レスリング金メダリストの佐藤満本学経営学部教授によるパネルディスカッション「オリンピックが大学スポーツにもたらすもの」が飯田義明経済学部教授（ユニバーシアードサッカー日本代表コーチ）のコーディネートで行われた―**写真**。植田氏は『この大学には、この分野』という専門性があると、日本のチームスポーツの競技力も向上していく。大学との連携はますます強まっていくだろう」、大学院生でもある宮下選手は、「自分に足りない点を自分で気づく選手でないと成長しない。大学にはともに励まし合い、成長できる環境がある」と話した。

指導者として男子レスリングを牽引する佐藤教授は、「日本は女子に比べて男子は低迷しているが、ジュニア世代から一貫して指導することで立て直しを図っている。北京の銅メダリスト・湯元健一選手は強化プロジェクト1期生として結果を出した。高い目標があればおのずと行動が伴う」と自らの経験を交え、目標設定の大切さを出席した学生たちに説いた。

JOCが本学に感謝状

北京五輪へのスタッフ派遣について、㈶日本オリンピック委員会から本学に感謝状が届いた。㈶日本バレーボール協会からの推薦によるもので、本学からは教員・学生・卒業生計4人のアナリストが派遣された（本紙8月号既報）。

大学院公開講座　幅広い視点から探る

現代米国の「展望」と「課題」

（10／3、【〝歴史〟アメリカ「黒人」とステレオタイプ】を講演する樋口映美文学研究科教授）

大学院公開講座は、タイムリーなテーマを取り上げ、神田キャンパスで夕方開講ということもあり、毎年人気を集めている。今年は世界中が大きな関心を寄せた米国大統領選に合わせ、講座前半（10月３日から24日までの毎週金曜日）では米国の抱える課題を歴史、政治、経済、文化の視点から論じた。

大統領選の結果を踏まえた後半（11月14日から12月５日までの毎週金曜日）では女性、環境、通商、日米関係の視点から米国の展望を提示して論じた。毎回約100人の参加があり、活発な質疑応答も行われた。

（写真は11/14【〝女性〟ファーストレディの活動と類型】を講演する濵賀祐子法学部非常勤講師）

専修人の新しい本

殺人罪に問われた医師

川崎協同病院事件

矢澤昇治編著

意思表示ができない患者に対して行われた医師の治療行為の差し控えや中止は、殺人罪に問われるのか。

川崎協同病院事件は98年、同病院に入院中の男性患者が気管内チューブを抜かれ、筋弛緩剤を投与されて死亡。主治医の女性医師が3年後に殺人罪に問われた。「患者は死が不可避な末期状態で、家族から要請されて延命治療を中止した」と主張する女性医師の上告訴訟代理人である著者は、発覚当時の新聞報道も含め「事件」を丹念に検証。1審、2審の事実認定と有罪判決、司法の医療行為への干渉を批判している。

尊厳死でも安楽死でもない「終末期医療での死」に対する医師の責任の在り方について論議を投げかけている。（現代人文社・本体2200円＋税）

編著者（やざわ・しょうじ）＝法科大学院教授。担当は国際私法、国際民事紛争解決。

最終講義のご案内

学部学科に関係なくどなたでも参加できます。卒業生の方も奮ってご参加ください。

▽岡田和秀経営学部教授
12月16日（火）2時限、生田430号教室（4号館）＝テーマ「私と経営学―たどってきた道―」

▽奥田勝臣経営学部教授
12月18日（木）4時限、生田10202号教室（10号館）＝テーマ「コンピュータと情報システム―企業と大学における研究教育・組織運営―」

▽平尾光司経済学部教授
09年1月8日（木）2時限、生田525号教室（5号館）＝テーマ「ベンチャー・中小・中堅企業の研究軌跡―イノベーション・企業成長・地域・金融システム―」

国際シンポジウム　社会知性開発研究センター／都市政策研究センター主催

「地域イノベーションの5つのモデル―日本（川崎）、アメリカ（シリコンバレー）、中国（上海）、ドイツ（ライン・ルール）、フィンランド（オウル）―」

▽日時＝09年1月10日（土）10時～16時40分

▽場所＝川崎市産業振興会館1階ホール（生田・神田でも同時中継）同時通訳付き。詳細はホームページで。

問社会知性開発研究センター　☎044（911）1347

フォーラム「みんなのオリンピック」社会体育研究所後援

▽日時＝12月19日（金）5時限▽場所＝生田キャンパス10301号教室▽ゲスト＝鈴木大地氏（順天堂大学）ソウル五輪競泳金メダリスト、山本昌邦氏（サッカー解説者）アテネ五輪サッカー日本代表監督、廣道純氏（プロ車いすアスリート）シドニー・アテネパラリンピックメダリスト

問社会体育研究室　☎044（911）1032